

# 序編

# 1 学校教育目標とグランドデザインの策定

平成29年に告示された学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の理念に基づき、めざすべき教育の在り方を家庭や地域と共有し、その連携及び協働のもとに教育課程の編成についての基本的な方針を、家庭や地域とも共有していくことが示されています。

そのため、各学校においては、教育目標に照らしながら各教科等の授業のねらいを改善したり、教育課程の実施状況を評価したりすることが可能となるよう、各学校が設定する教育目標は具体性を有するものであることが求められています。

## ポイント①

## 全教職員でグランドデザインをつくる

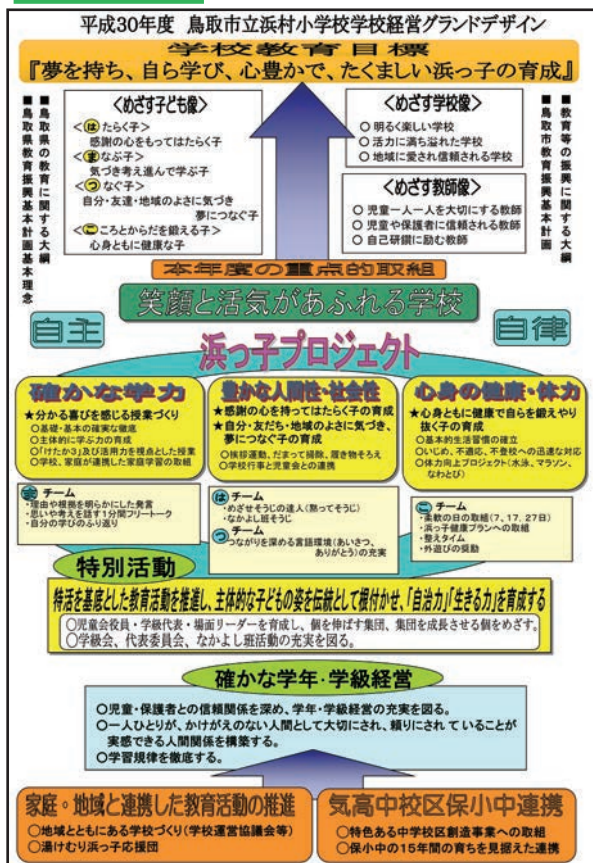
グランドデザイン(学校教育全体構想図)策定にあたっては、学校教育目標の実現に向けて、学校の教育活動全体を視野に入れ、児童生徒の実態、学校や地域の特性などを明らかにした上で、校長のリーダーシップのもと、全教職員が関わって協議し、共有することが大切です。

### 学校教育目標の設定のポイント

- (1) 法律及び学習指導要領に定められた目的や目標を前提とするものであること。
- (2) 教育委員会の規則、方針等に従っていること。
- (3) 学校として育成を目指す資質・能力が明確であること。
- (4) 学校や地域の実態等に即したものであること。
- (5) 教育的価値が高く、継続的な実践が可能なるものであること。
- (6) 評価が可能な具体性を有すること。

『小学校学習指導要領』解説総則編(平成29年)P.47  
『中学校学習指導要領』解説総則編(平成29年)P.48

### 小学校の例



### グランドデザイン策定の手順

- ① 学校教育目標・重点目標の決定
- ② 学校教育目標を「育成をめざす資質・能力」の3つの柱で具体的・分析的に描き直す。
- ③ ②の資質・能力の育成に向けて、どのような教育活動を、どのような教育資源を活用しながら、どのように実施していくのかを明らかにする。

校長によるグランドデザインの決定、全教職員への提示のあと、全教職員で共通理解を図ります。

企画会議やグループ会議等を通じて、すべての教職員がグランドデザインの策定に携わっていきましょう。

中学校の例

**平成30年度 東中学校 本校グランドデザイン**  
 (校訓) 身体を鍛え 真理を求め 素直に生きる

〈めざす学校像〉  
**安心・安全な地域に愛される学校**  
 ～喜んで登校 満足して下校～

〈東中学校のミッション〉  
 1 東中学校の生徒に対して、学力を保障し、人間関係づくりのスキルを身につけさせたい学校にする。  
 2 保護者とともに安心・安全な学校づくりをめざし、学力の身につけにくい通わない学校にする。  
 3 東中校区の地域のみならず、積極的な情報発信を行い、生徒が地域貢献できる支援を頂き、学びたい地域の学校にする。

〈学校教育目標〉  
 感謝の気持ちを忘れず未来を生きぬく学力と人間力をあわせもつ生徒の育成

**東中生徒5原則 (めざす生徒像)**  
 ①「感謝」できる生徒 ②「ふだん力」をたゆまずつちかう生徒  
 ③「学ぶ楽しさ」のわかる生徒 ④「本」に親しむ生徒  
 ⑤ 家庭や地域で「役に立つ」ことのできる生徒

〈めざす教職員像〉 ワークライフバランスをベースに、授業力を磨き、チームで学校教育目標実現をめざすべく協働・参画・貢献していくチーム東中教職員

**重点目標**  
 ① 凡事徹底 (時を守り場を清め礼を尽くす)  
 ①生徒5原則の浸透 ②規律の徹底で安心・安全確保 ③学校内外の環境美化  
 ② 全校出席への挑戦  
 ①リーダー・フォロワー・イネイプラーを念頭に自治力の不断の育成  
 ②学校不登校生徒、特別支援を要する生徒への全職員共通理解と協働支援  
 ③日々のボイスシャワーと自己効力感を育てる断続的な教育実践  
 ③ 学力向上への不断の努力(学びの場)  
 ①生徒の学びの見える環境整備を通年で  
 ②すべての生徒の学力ワランクアップさせる工夫 (自発と学び合いができる授業設計・ワーク・グループの確保)  
 ③15の春を見通した進路指導、進路保障  
 ④ 将来への夢や希望を語る生徒の育成  
 ①自分の強みを活かし、他者理解できる生徒づくり  
 ②郷土鳥取、母校東中及び各校区への思いを語る生徒を地域とともに

〈いいひがし&地域連携等〉  
 ○地域学校協働活動(東心会) ○学校運営協議会 ○チーム学校 ○教育振興会活動  
 ○東中会・同窓会

協働 連携 公開 発信



義務教育学校の例

**福部未来学園 学校経営ビジョン Ver. 1.1**  
 ミッション: 地域と(を)創る・未来を創る学校

●願い(子供・親・地域) 学力向上・主体的・自立心育成・福祉を誇り、愛する心身の醸成

【教育目標】  
 健やかで思いやりがあり 志をもつ子の育成  
 ～ふるさとを未来を拓き 創造する福部の空～

【めざす児童・児童・生徒像】  
 ・自分の夢や目標に向かって努力する子  
 ・自分に自信をもち、人を大切にできる子  
 ・ふるさとを愛し、誇りをもつ子

「仁恕」  
 自分基準・相手基準で思いやり、自信を大切に育てる。

「切磋琢磨」  
 競い合い高め合いながら、誰一人勝つことなく、磨かれて自分の光を放つ。

■めざす学校の姿  
 「か・し・れ」のある学園  
 学園の本である田中中学校初期の精神に因り、子どもも学びながら、保護者も学びながら、地域へ支えがたい、教職員も誇りがたうある学園を目指す。

■行動指針(めざす教職員)  
 ・Challenge (できない理由よりどうすればできるか)  
 ・Creation (新学習課程より新規開拓)  
 ・Communication (点より線、線より面・数珠の集)

■中期目標～「福部未来学園プラン」3年次&「MIRAIプラン」1年次～  
 ★特色ある創造性豊かな教育課程の編成  
 ・一貫教育の進みを生かした学力・自治力の向上 ・みらい科・総合を核としたカリキュラム・マネジメント  
 ★機能するマトリクス構造の学校組織・チームづくり  
 ・ブロック制(初等・中等・高等)の確立 ・10年間をつなぐ運営組織づくりとチーム対向の浸透  
 ★地域連携・協働体制の進化  
 ・地域と共にある学校づくり(学園運営協議会を核に) ・地域に開かれた教育課程の実践

■研究主題 『MIRAI』につなぐ一貫教育の創造  
 ～「深・学び」をデザインするカリキュラム・マネジメント～

**本年度の重点**

〈学力向上〉  
 ○一貫カリキュラム・マネジメントによる学力・授業力向上  
 ○家庭学習と連動した基礎・基本の定着  
 ○個別・全体への支援の充実

〈自治力向上〉  
 ○自治的・節制的な児童児童社会と規律活動  
 ○ブロック制を生かしたリーダー育成・集団づくり  
 ○道徳・人権教育の充実

〈健康力向上〉  
 ○よりよい生活習慣定着～メダアイ21等家庭との連携～  
 ○遊び・楽園体育・小体連・部活の連動による体力向上  
 ○教育相談等の組織的対応

※ブロック長を中心とした推進  
 ・3ブロック制の連携

初等(さくら～2年) ～学びの土台づくり～  
 ・幼児教育と義務教育の連続・一体化(遊びきり-教科学習)  
 ・体験重視・基礎基本の徹底

中等(3年～5年) ～学びの定着・拡充～  
 ・具体から抽象へ  
 ・実践と協働  
 ・ゴールデンエイジ

高等(6年～9年) ～学びの深化・発展～  
 ・教科担任制-専門的な学び  
 ・進路を見据えた学力  
 ・社会的自立への基礎固め

※10年間を貫く分掌・教科部会  
 ※運営委員会等を通じたアップダウンの意思伝達・共通理解

〈地域力向上〉  
 ○学園運営協議会を核としたネットワークづくり～地域道徳体との協働、P-T-Aと連携した広報・啓発活動～  
 ○地域学習の拡充～生活・総合的な学習の時間を中心とした資源・人材活用、児童・生徒による地域貢献～  
 ○情報の送受信～参観日・行事等による学校公開、便り・HP等による情報発信～

〈グランドデザインの内容例〉

- 学校教育目標と年度の重点目標
- 何が身に付いているのか
- 何ができるようになるか
- 何を学ぶか
- どのように学ぶか
- 子どもの発達をどのように支援するか
- 実施するために何が必要か 等

グランドデザインの策定・全教職員の共通理解 → 保護者・地域の方との共有

↓

全教科、全単元を俯瞰し、関連付けた単元配列表の作成

↓

学びのプロセスを意識した単元計画の作成

グランドデザインをもとに、各教科等、各学年・学級の指導計画につなげていきます。このことにより、カリキュラム・マネジメントの確立へとつながります。

すべての教職員がグランドデザインの策定に携わることで、学校の取組の方向性を意識・共有することになり、1年を通じて、全教職員が教育活動の改善・充実を図ることにつながります。

## 序編 2 カリキュラム・マネジメントの充実

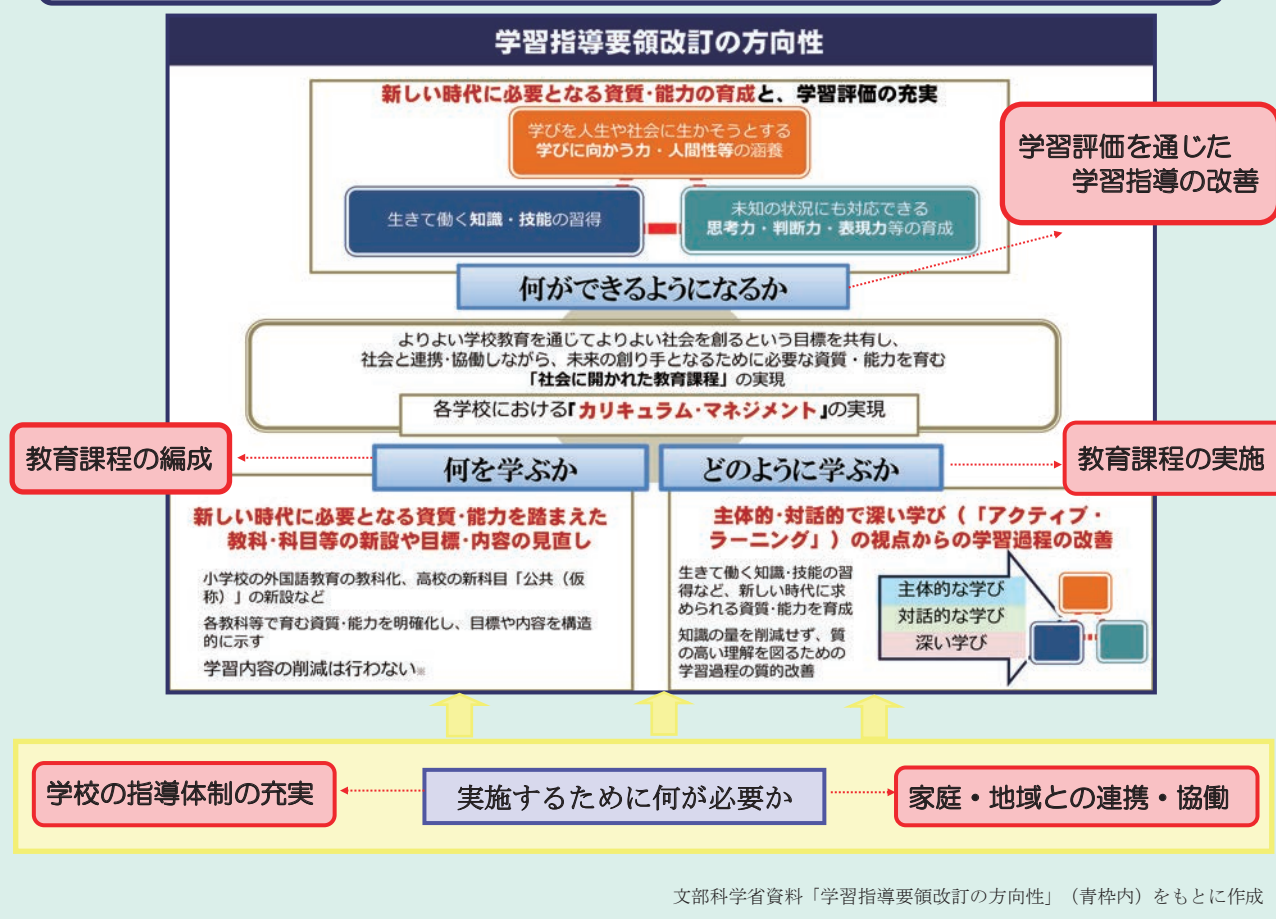
「カリキュラム・マネジメント」とは、「教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと」であり、各学校においては、校長の方針のもとに、校務分掌に基づき教職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行うよう努めることが求められています。

### ポイント①

### 全教職員でカリキュラム・マネジメントを確立する

各学校の児童生徒の姿や地域の実情等と指導内容を照らし合わせ、学校教育目標の具現化のため、教育課程や年間指導計画等の効果的な実施について、教科等や学年を越えて、学校全体で取り組んでいくことが大切です。

### 学習指導要領改訂の方向性とカリキュラム・マネジメントの関連



### カリキュラム・マネジメントの3つの側面

- ①学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組み立てていくこと →各教科等の教育内容を相互の関係でとらえ、組織的・計画的に配列する。
- ②子どもたちの姿や地域の現状に関するデータ等に基づき、教育課程のPDCAサイクルを確立すること →学校評価とも関連付け、教育内容の質の向上につなげる。
- ③人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用し、教育課程の改善を図ること →教育内容と資源の効果的な組み合わせを検討する。

ポイント②

学校全体を見通し、教育活動をつなぐ

教育課程全体を俯瞰して、教科等横断的な視点から教育活動の改善及び教科等や学年を越えた実践が求められています。

単元配列表を作成する際には、学校教育目標の実現を念頭に置き、各教科等で行われる一つ一つの単元が、1年間でのどのように実施されるのかを俯瞰しながら、個別の教科等における学びや人（児童生徒・教職員・保護者・地域等）、生活がどのように結びついていくのかを意識して作成します。

例：1年間を見通した単元配列表

(2期制の小学校5年生 総合的な学習の時間を中核とした場合)

鳥取市立静風小学校では、単元配列表を「視覚的カリキュラム」と表現し、全学年が作成しています。

H30年度 静風小学校 視覚的カリキュラム 第5学年2組														生活・総合との関連	地域の学習材(人)	地域の学習材(出かけたこと)	1年間の期を「つなぐ」									
														4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数
国語	「はじめて」ぶどうしよう ・国語館へ行こう ・動物の体と気候		文の組み立てに気をつけよう ・意見と理由を聞き取り ・世界でいちばんやましい音		新聞記事を読み比べよう ・漢字の由来に好奇心をもちよう		立場を決めて討論しよう	詩を味わおう ・資料をかして考え比べよう ・古文を声に出して読んでみよう ・物語を劇化しよう	説文の多い料理店 ・不思議な世界へ出かけよう	精神をそらえる言葉に気をつけよう ・和の文化を受けつづけて	手紙の構成を知ろう ・手塚治虫	「五七五で書こう」 ・古文の読みかた ・田舎よう、委員会活動	「レドとの付き合い方」 ・六学年における学習いせんよう ・大遠いきんとん	わたしの文章見本帳を作ろう	175											
算数	整数と小数 ・体積		小数×小数 ・式と計算 ・同じものに目を向け		自然な図形		整数	分数(1)	面積	平均とその利用 ・単位量あたりの大きさ	分数(2) ・異単位量を使って ・確々に読ませて	割合	円と正多角形 ・角柱と円柱	変わり方 ・もうすぐ6年生	175											
理科	花のつくり		メダカのたんじょう		ヒトのたんじょう		花から美へ	雲と天気の変化	流れる水のはたらき	ふりこのきまり		もののとけ方		電磁石のはたらき	105											
社会	世界の中心の国と ・国土の地形と特色		低い土地のくらし(選択) ・国土の発展の経緯 ・あなたがい、新しい土地のくらし		くらしを支える食料生産 ・水産業のさかんな地域		工業生産と工業地域 ・自動車を作る工業 ・工業生産を変える	情報産業とわたしたちのくらし	社会を変える情報 ・情報を生かすわたしたち		わたしたちの生活と森林 ・環境を守るわたしたち				100											
行事・特色	入学式 始業式 ・金曜足 1年生を迎える会		交通安全教室 ・運動会		プール開き ・新体力テスト ・校外学習 ・のちの集會		なかよし集會 (ドッジボール集會)	前期始業式 ・後期始業式 ・校内マラソン大会	静風フェスティバル		なかよし集會 ・創立記念式		給食週間 ・合唱コンクール		6年生を送る会 ・卒業式 ・修了式											
総合	<p>歴史とふちゅー〜鳥取城下町と歴史〜(50)</p> <p>歴史とふちゅー〜未来へのとびら〜(20)</p> <p>「警の学校」を成功させよう(6)</p> <p>6年生を送る会を開こう(10)</p> <p>未来へのとびらを開く準備しよう(4)</p>														単元を「つなぐ」		課題と成果を 次年度に「つなぐ」									
	<p>総合的な学習のテーマを考えよう(7)</p> <p>鳥取城下町と歴史の計画を考えよう(6)</p> <p>鳥取城下町と歴史-調査開始(23)</p> <p>本にきとめよう(12)</p> <p>振り廻りをしよう(2)</p>																									
学習指導要領	<p>徳川、やまびこ館、鳥立博物館、鳥立図書館</p> <p>静風地域の歴史を知っている方</p>																									
音楽	ゆたかな歌声をひびかせよう		いろいろな音のひびきを味わおう		和音の奥しさを味わおう		曲想を味わおう	詩と音楽を味わおう	日本と世界の音楽に親しもう		心をこめて表現しよう				50											
図工	心のともよう		カードを使って ・作品のストーリーを考えよう		糸の不思議 ・調子でかく		祭り重ねて表そう	あんなところでこんなところ	ねんえをわって ・ねんえをけすずて	じつと見つめてみると ・足が上がれ！マイサイン	くわくわくおこバズル	また見ぬ世界 ・死のハーモニー	ミラクル！ミラクルステージ ・物語から広がる世界	コマコマアニメーション ・めくれ！夏祭バラクーアニメ												
体育	体ほくしの運動 ・マット運動		体力を高める運動		心と健康 ・水泳		楽しいファッション!	新しい動きの世界 ・走りほほび	短き走り走-リレー	ハンドボール		けがの防止 ・鉄棒運動	とび箱運動	サッカー												
外国語	HF1-1 Hello!	HF1-2 I'm happy.	HF1-3 How many?	HF1-4 I like apples.	HF1-5 What do you like?	HF1-6 What do you want?	HF1-7 What's that?	HF1-8 What would you like?	HF1-9 What do you like to do?	HF1-10 Hello everyone.	HF1-11 What do you have on Monday?	HF1-12 She can run fast.	HF1-13 Where is the treasure?	HF1-14 Where is your bag?												
家庭科	わたしと家族の生活		はじめてのみよう ・クッキング		はじめてのみよう ・ソーイング		かたづけよう ・身の回り	わくわくシン	食べて完結に		じょうずに使おう ・お金の知		寒い季節を快適に	家族はほっとタイム												
道徳	一人という数 ・ぬすてられたく		もったいない ・お茶席 ・友のしよう ・電気が切れるま		つぎの新しい喜び ・心のゆりゆう ・友からの転入生 ・言葉のおくりもの		世界に羽ばたく 「航空」 ・ほかにいるよ	植物とともに ・牧野富太郎 ・どろだらけのユニフォーム ・美徳を守る人	日本の「まご」の精神 ・ライバルは自分自身 ・大塚芳彦の付箋 ・新幹線	いじめをなくすために ・すれがたい ・この思いをフェルトペン ・たたくて ・うばれた自由	二十分間の出来事 ・顔のしよく ・おれいさんのあたたかな目	おもしろいけれど ・いらいははらがる ・もう一つ	ペルーは晴れている ・アルゼンチンの空													

教科を「つなぐ」

体験と言語を「つなぐ」

暮らしと「つなぐ」

一人一人の子どもの学びは、個別の教科内で閉じるものではなく、それぞれの学びが相互に関連付き、つながり合っているものです。学校においては、全単元を関連付けながら適切かつ効率的にカリキュラムを管理することによって、様々な人・教科・領域等・学年等を「つなぐ」ことができます。

カリキュラムを「つなぐ」

各教科等の単元計画



詳しくは、「授業づくり編」P.32を参照してください。

カリキュラム・マネジメントは、学校の組織力を高める観点から学校の組織や経営の在り方を見直すものでもあります。教育課程を軸にしながら、学校教育目標実現に向けて、すべての教職員が参画して、創意工夫していきましょう。

## 序編 3 校(園)内研修の充実に向けて

校内研修は、学校の課題の解決や教職員の資質・能力の向上をめざして、学校全体で計画的・組織的に取り組む研修活動です。学校教育目標の実現に向けて、共通理解を図り、具体的な研修を進めていくことが大切です。

※幼稚園、保育所、認定こども園等においては、学校を園、教職員を保育者と読みかえ、読み進めてください。

### ポイント① 教職員の意識を高める

研修の充実に向けて、まずは教職員の意識を高め、課題を共有しながら、課題解決へ向けて学校全体で実践していくことが大切です。

#### まずは教職員の意識改革を…

- 研修したことをその後の子どもへの指導に生かすという意識をもつ。
- 研修によって、学校がめざす方向へ変わっていくという意識をもつ。
- みんなで取り組むことで学校全体への波及効果が現れるという意識をもつ。

#### 校内研修が充実すると…

- 学校組織全体が活性化する。
- 教職員の一体感が生まれる。
- 教職員一人一人の資質能力が高まる。
- めざす児童生徒の姿の具現化が図られる。
- 保護者・地域からの信頼度が上がる。



#### 校内研修充実のために

##### ① 管理職の意識（研修の重要性）

- ・ 人材育成の視点
- ・ 教職員の指導力の向上



##### ② 研究主任の役割と動き

- ・ 学校経営方針や重点事項の理解と周知
- ・ 優先順位を考えた具体策の明確化
- ・ 教職員の課題意識の把握

#### 2つの研修場面

##### ① OJT（普段の仕事を通しての研修）

- ・ ルーチン業務
- ・ 日常の打合せ
- ・ 学年の話合い

##### ② 集合研修（校内で設定した研修）

- ・ 課題を共有化した研修計画の作成
- ・ 教職員の力量を高める授業研究
- ・ 学校の多様な課題に対応する研修

#### より実効性のある研修にするために

- 複数の視点から現状を見つめ直す。
- 最優先課題を明確にする。
- 取組の具体策を可視化する。
- P D C A サイクルを確立する。
- 発信できる場面を設定する。
- 子どもたちの姿で取組を評価する。



成果や課題を全職員が共有しながら、高め合っていけるシステムや関係性を築いていきましょう。

序編

# 4 校(園)内研究の進め方

校内研究の計画は、まず児童生徒の実態把握から始まります。学校教育目標を基にして設定する「めざす児童生徒の姿」と「実態」とのズレやそのズレを生じさせている原因が「学校の課題」と言えます。この課題克服のための取組が「研究」であり、めざすゴールをイメージさせるものが「研究主題」や「研究仮説」です。

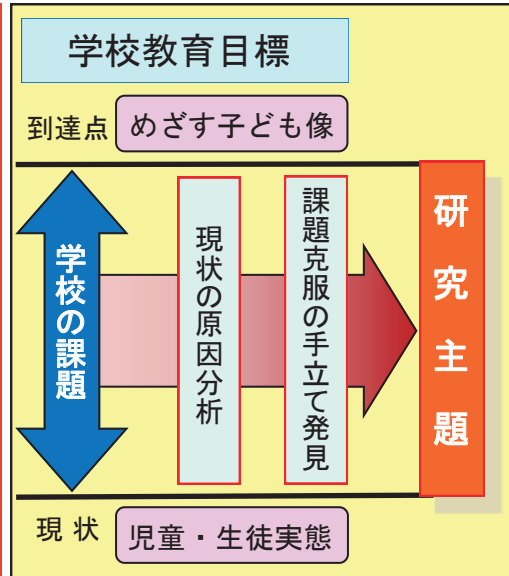
**ポイント①**

## 実態把握と課題の発見から研究主題を決める

研究主題は、学校としての課題を明確にし、研究の方向性を示すものであり、学校教職員の研究への共通認識を図る上でも、重要なものです。

### 研究主題の設定

- ◆研究主題を設定するときには、次のような点を踏まえることが大切です。
  - ・学校の教育目標、本年度の重点目標から検討する。
  - ・児童生徒の実態や地域の実態を把握する。
  - ・昨年度の研究の成果と課題から、深化・発展させる。
  - ・今日的な教育課題に應える。
- ◆研究主題を具現化するために、研究の副主題を設定することもあります。
- ◆研究主題と副主題には、以下のようなものを入れ、研究の様相を明らかにします。
  - ・めざす子ども像
  - ・めざす授業像
  - ・目的
  - ・手法



**ポイント②**

## 研究のゴールをイメージさせる研究仮説を設定する

研究仮説の中で、研究の重点や手立ての方向性を示すことで、取組の具体が明確となります。また研究結果の予測は、ゴールイメージを確かにもつことにつながります。

### 研究仮説の設定

- ◆研究仮説とは、研究の見通しや研究結果の予測にあたるものです。
- ◆主に研究主題に迫るための考え方や方法を示します。次のように表現されることが一般的です。

〇〇において

〇〇を〇〇することによって

〇〇となる(であろう)

(A：研究の場や範囲)

(B：研究の手立てや重点)

(C：めざす姿・研究結果の予測)

具体的な研究仮説の設定で、研究の手立てやめざす子ども像を全教職員で共有しましょう。



- ◆次の手順で研究仮説を設定します。

- ① 研究の成果を予測し、めざす子ども像を明確にする。(C：めざす姿・研究結果の予測)
- ② めざす子ども像を実現するため、教科・領域・学習過程・時期・素材など、研究の場や範囲を決定する。(A：研究の場や範囲)
- ③ めざす子ども像を実現するため、どのような手だてや工夫を行うか、具体的な方法を明確にする。(B：研究の手立てや重点)

ポイント③

## 具体的な研究推進計画で共通理解を図る

校内研究を推進するために、研究推進計画をまとめ研究の構想を具体的なものにしていきます。その中で、校内研究に関わる要素を構造的に位置付けた全体構想図を作成することは、教職員の共通理解を図るために有効です。

### 校内研究推進計画作成の留意点

- ◆学校の教育目標をはじめ、教育の全体計画との関連を図ること
- ◆研究の推進計画と研究の年間計画との関連を明らかにするなど、具体的な見通しをもてるようにすること
- ◆計画全体について共通理解を図ることができるように整理すること
- ◆必要に応じて計画の見直しができるような柔軟性があること

### 校内研究推進計画の主な項目(例)

- 1 研究主題・副主題
- 2 主題設定の理由
- 3 研究仮説、めざす子ども像
- 4 研究内容・方法
- 5 **研究の全体構想図**
- 6 研究組織
- 7 研究計画（研究日程等）

### 研究の全体構想図 作成の留意点

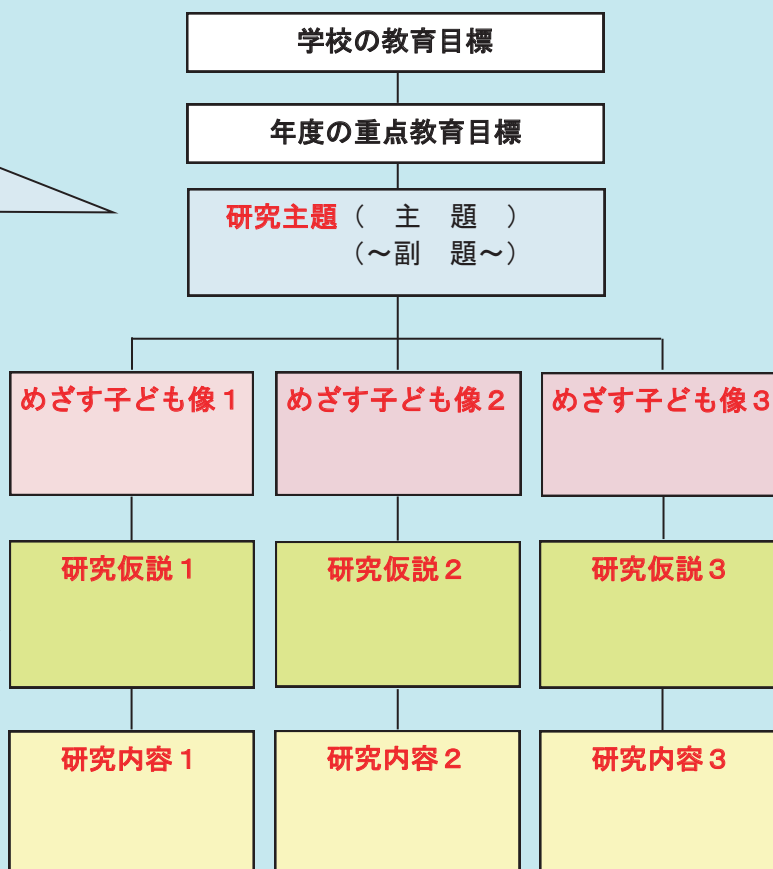
◆学校の教育目標や年度の重点教育目標から導き出された課題の解決につながる**研究主題**を位置付けます。

◆研究主題で示された研究の目的をもとに、**より具体的な子どもの姿（めざす子ども像）**を位置付けます。

◆めざす子ども像に迫るための手立てを考え、**研究仮説**を位置付けます。

◆研究仮説で示された手立てを**研究内容**として具体的に位置付けます。

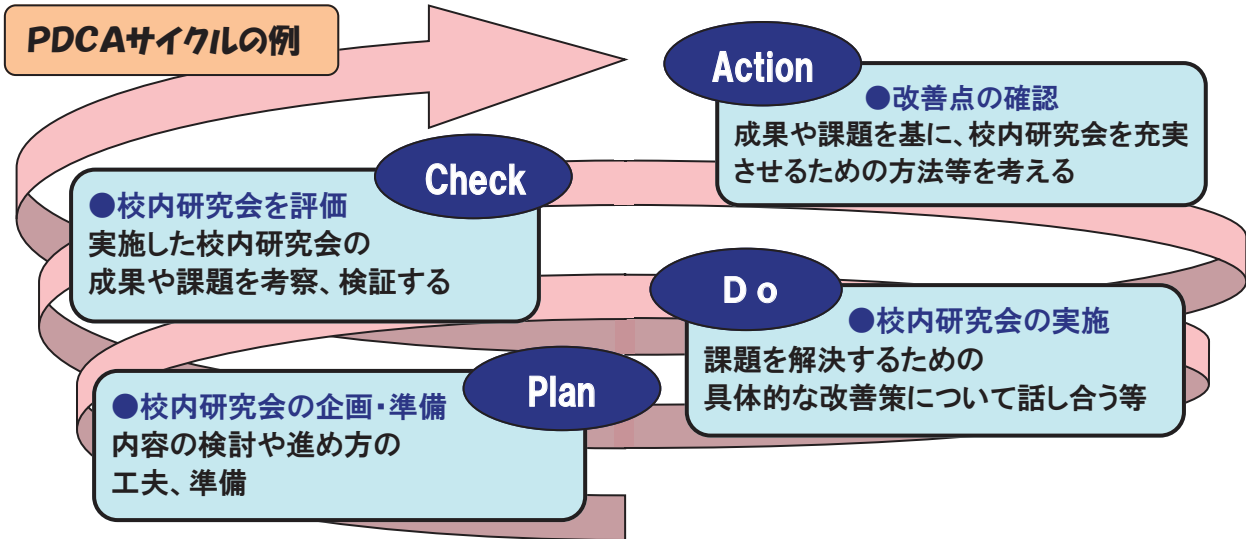
### 研究の全体構想図のモデル(例)



作成した研究の全体構想図は、固定化されたものではなく、弾力性のあるものと考え、改善を図ることが大切です。

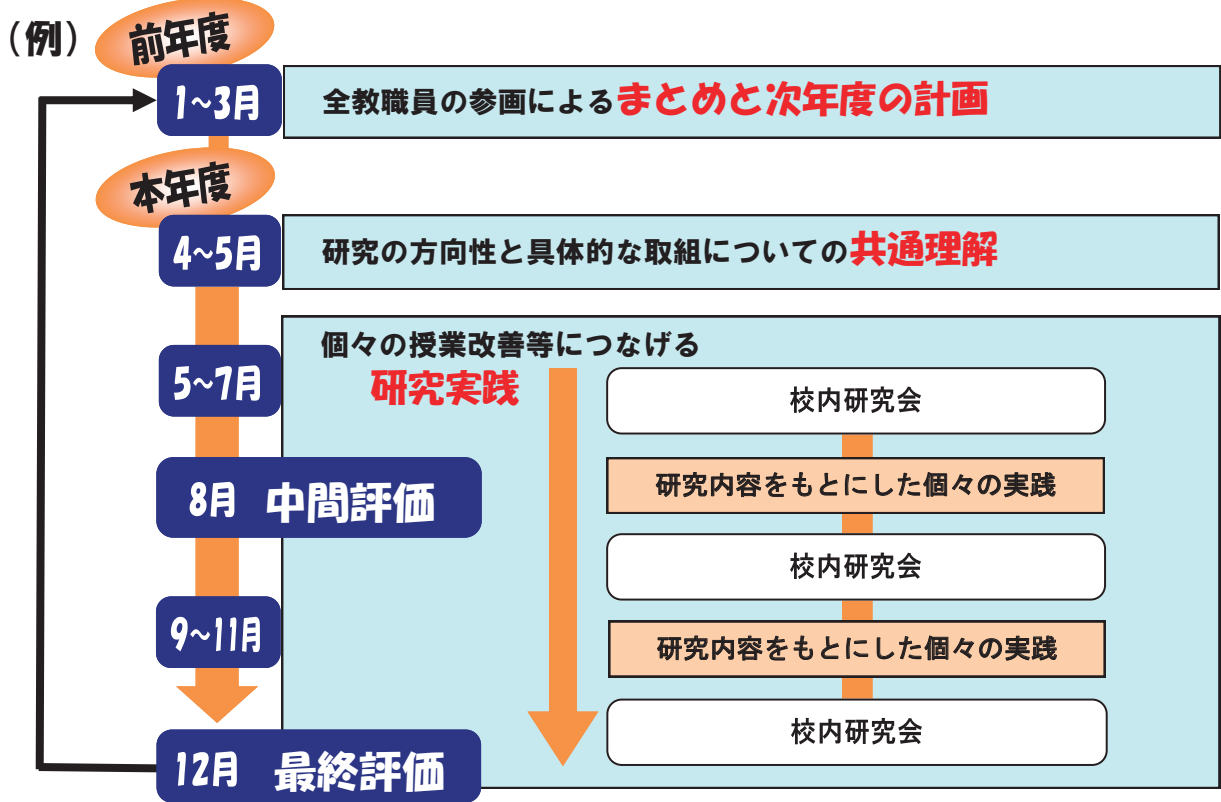
**ポイント④ PDCAサイクルを進める**

一つ一つの校内研究会が、設定した研究主題や研究仮説の実現につながるよう、PDCAサイクルに基づいて常に見直しを行い、研究の成果をその後の日常活動に生かすことが大切です。



**ポイント⑤ 年間の研究計画を立て見直しをもつ**

PDCAサイクルで、研究の見直しをしながら、年間を通した取組を全教職員で進めていくことが大切です。前年度のうちに見直しをもって準備することが、年度当初のスムーズなスタートにつながります。



校内研究を充実させることは、各校の掲げる「めざす児童生徒の姿」の具現化に向けた取組を進める上で、大きな力となります。校内研究を積極的に行い、教育活動の充実を図りましょう。



## 序編

# 5 授業研究会(公開保育)の実施・計画

授業改善を通じて学校教育目標の実現につなげるという視点で、日々の授業を大切にするとともに、授業研究会を授業改善の好機と位置付け、授業研究会で明らかになった改善策等を明日からの授業実践に生かすことが大切です。

※幼稚園、保育所、認定こども園等においては、「授業」を「保育」と読みかえ、読み進めてください。

## 授業研究会の意義

### 授業力を高める

- ◆よりよい授業へのヒントを得ることができる。
- ◆他の教師の授業を観ることで、自分の授業を子どもの目線で振り返ることができる。
- ◆他の教師に授業を観てもらうことで、新たな気づきが得られる。

### 同僚性を高める

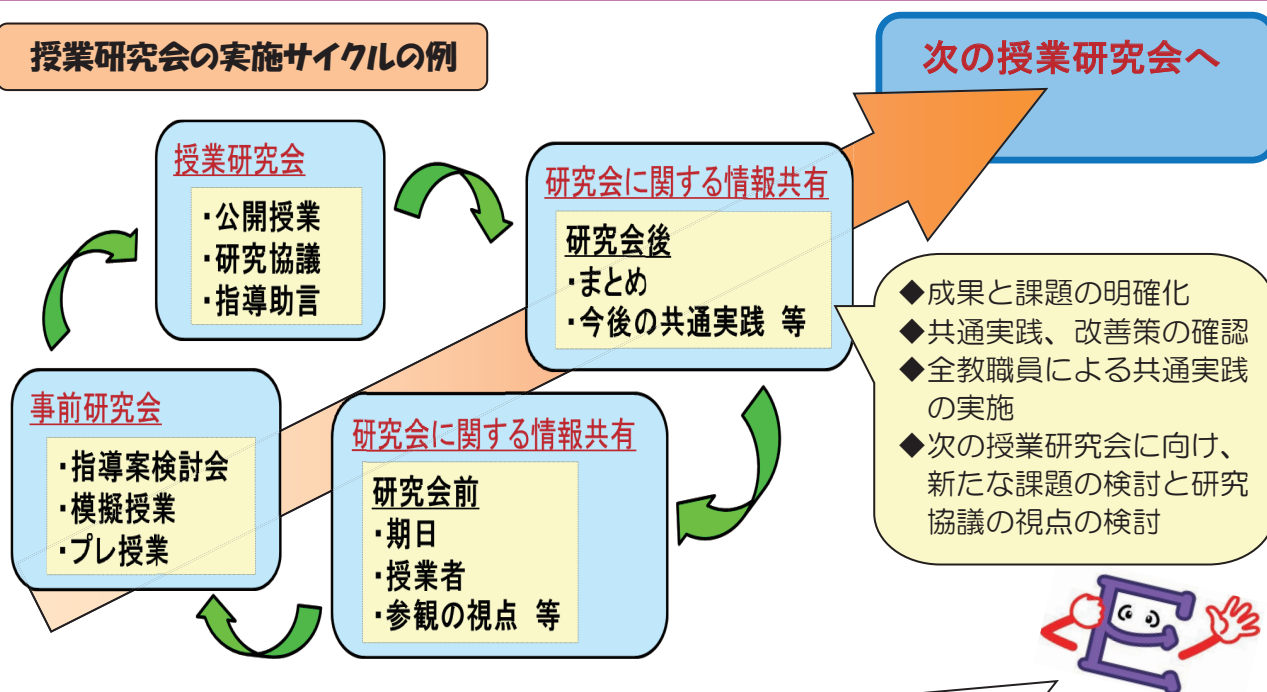
- ◆教師間のコミュニケーションが円滑になり、よりよい人間関係を築くことにつながる。
- ◆課題の共有化が図られ、その解決に向けて協働して取り組めるようになる。
- ◆教師集団としての意識が高まり、学校の活性化につながる。

### ポイント①

## 授業研究会の実施サイクルを構築する

授業研究会では、校内で検討された研究協議の視点に基づいて公開授業や研究協議等が実施されます。その成果と課題、改善策を共有し、次の授業研究会や日々の実践に生かし、研究の積み上げを図ります。そのためには、授業研究会の実施サイクルを構築し、計画的に効率よく進めることが大切です。

### 授業研究会の実施サイクルの例



意図的・計画的な実践により、授業研究会をより実効性のあるものにしましょう。

ポイント②

## 授業研究会の活性化を図る

授業研究会の活性化を図るためのヒントを紹介します。授業研究会を教職員全員の学びにつなげることで、学校教育目標の実現に向けた着実な取組となります。

### 授業研究会の活性化を図るためのヒント

■ 授業研究会の到達目標を明確にする

研究会のゴール（何がねらいか、どこまで話し合うのかなど）を明確にし、共通理解してから会を始めましょう。

■ 各自が課題意識や視点をもって研究会に臨む

事前に研究会の趣旨を共通理解する、指導案や資料に目を通す、協議の柱について意見をまとめておくなど考慮し、全教職員が主体的に参加できるよう準備をしましょう。

■ ワークショップ形式の授業研究会を工夫する

アイスブレイク等で話しやすい雰囲気を作る、ワークシートや付箋を活用し、グループで話し合うなど、授業研究会の方法を工夫しましょう。

（資料編「考えを広げる参加型の思考ツール」P.95,96参照）

【ワークシート例】

	研究協議の柱		授業場面ごとや時系列に分けて付箋を貼ることもできます。	成果・よさ		研究の視点①	研究の視点②
成果・よい点							
課題・改善点			改善策についても協議し、書き込みます。	課題・疑問			

拡大した指導案に付箋を貼りながら協議する方法も有効です。

■ 研究会で確認したことや評価したことを共通理解し、実践する

研究会で明らかになった課題は、改善案まで考えることが大切です。小さな変容や進歩が実感できるように、短期間でめざすものをスモールステップで設定し、具体的に実践していきましょう。

取り組みやすいところ、変化が見えたところから肯定的に評価し、研究会便り等で教職員に発信しましょう。

## 〇〇校 研究会だより

〇〇学校 研究担当〇〇〇〇  
〇年〇月〇日 NO.1

【校内研究会だよりの項目例】

### 第〇回 校内授業研究会

- 授業研究会の協議内容
- 指導助言の内容
- 成果と課題の整理
- 課題の改善策
- 今後、共通実践すること
- 次回の校内授業研究会について

ワークショップで作成した成果物、研究会便り等を通して、授業研究会で明らかにした改善策等を全教職員で共有しながら、日々の実践を具体的に進めていきましょう。